

文教警察委員会 県内所管事務調査の概要

【令和2年11月12日（木）】

◆調査箇所：県立佐伯鶴城高校

<概要>

同校は、創立110周年目を迎え、文武両道を目指した県南の進学拠点校として、進路指導の充実・進学率の向上に努めている。

平成29年度から5年間、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、地域の特性をいかした探究活動を通して、科学技術系人材の育成や新たな価値の創造に向け、積極的に挑戦する取組を行っている。

<主な質疑等>

- ・市や地元産業との連携促進について
- ・SSHの校外研修活動について
- ・学校選択制度と地域に残る人材の育成について



◆調査箇所：佐伯市立昭和中学校

<概要>

同校は、全校生徒204名の小規模校で、「ふるさとを愛し、夢や目標の実現に向けて粘り強く取り組む生徒の育成」を教育目標に掲げている。

学校重点目標や総合的な学習として設置された「番匠・尺間PT」の地域に出向く活動内容等について説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・スクールサポートスタッフの活用について
- ・コロナ禍の下での学校行事や感染症対策等について
- ・GIGAスクール構想の準備状況について



◆調査箇所：豊後大野市立三重第一小学校

<概要>

豊後大野市では『「主体的な自己実現」をめざして～15に春を～』を基本目標に、学力向上の取組を推進している。

平成31年度に、三重第一小学校を含む3校を小学校教科担任制推進校に指定し、高学年における教科担任制を導入している。

教科担任制の目的や成果、課題等について説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・教員の定数や市採用枠について
- ・担任と教科担任の連携について
- ・市全体の教科担任制導入の進捗状況について



【令和2年11月13日（金）】

◆調査箇所：県立久住高原農業高校・くじゅうアグリ創生塾

<概要>

同校は、平成31年4月に県下唯一の農業科単独校として開校した。地域農業の担い手となり、大分県農業の発展に貢献する人材づくり、地域社会から信頼される学校づくりに取り組んでいる。

また、大分県農業教育の中核を担う研修施設「くじゅうアグリ創生塾」と竹田市運営の寮が設置され、恵まれた環境をいかした特色ある農業教育プロジェクトを展開している。

<主な質疑等>

- ・基礎学力向上の取組や習熟度別授業について
- ・教員の専門性について
- ・地域未来留学制度について



◆調査箇所：県立大分豊府高校・大分豊府中学校

<概要>

同校は、県内唯一の県立中学校であり、中高6年間の連続した特色ある教育活動を展開している。

また、高校では、高入生と内進生の刺激と融合による中高一貫教育校として、大学教育・社会生活を見通した「学力」、「人間力」の向上を図っている。

<主な質疑等>

- ・県立中学校と市教委との連携について
- ・中学入学後の転校者数について
- ・高校における高入生と内進生の習熟度調整について



◆調査箇所：県立盲学校・聾学校合同寄宿舍

<概要>

児童・生徒の自立や社会参加に向けて、共に学び、経験を広める場となるべく、盲学校・聾学校合同寄宿舍が令和2年6月に整備された。

建物は鉄筋コンクリート造3階建てで、1階は管理フロア（事務室、共有スペース）、2階を男子フロア、3階を女子フロアとし、全フロアにそれぞれの障がいに対応した設備が整備されている。

(例)

- ・視覚障がいに対応した設備：点字誘導ブロック、点字表示、音声ガイド付きエレベータ 等
- ・聴覚障がいに対応した設備：緊急標示システム（文字情報システム）、非常時回転灯 等



◆調査箇所：大分市立碩田学園

<概要>

同校は、平成29年4月、3つの小学校と碩田中学校が一つとなり、県内初の義務教育学校として開校した。

教育区分を前期（4年）、中期（3年）、後期（2年）とし、義務教育9年間を見通した系統的な指導を行っている。

また、ランチルームやアリーナ、可動式の屋内プール等特徴的な教育施設を有しており、児童生徒の発達や動線等を配慮したユニバーサルデザインが採用されている。

<主な質疑等>

- ・ P T Aの活動について
- ・ 台風や地震時の避難所活用について
- ・ 屋内プールの活用について

